

吹田市商工業振興対策協議会 議事要旨

- 1 開催日 令和8年5月22日(金)
- 2 開催時間 午後1時30分から午後3時まで
- 3 開催場所 吹田市役所 高層棟4階 特別会議室
- 4 出席委員 太田会長、森山委員、岸原委員、山口委員、紙谷委員
布施委員、坂手委員、足立委員、松下委員
- 5 欠席委員 鷺副会長、西田委員、高田委員
- 6 出席職員 脇寺部長、萩原次長、大音参事、村澤参事、大村主幹
村田主幹、二階堂主査、正武迫主任、廣森主任
- 7 公開・非公開の別 公開
- 8 傍聴者 なし
- 9 配付資料(事前送付)
 - (1) 次第
 - (2) 資料集
 - 資料1 令和8年度都市魅力部地域経済振興室 商工業施策の体制
 - 資料2-1 令和6年度(2024年度)~令和8年度(2026年度)吹田市商工関係事業別予算・決算の対比
 - 資料2-2 企業立地促進奨励金交付実績
 - 資料3 吹田市商工振興ビジョン2025検証シート
- 10 会議内容(発言要旨)

■案件1「令和6年度(2024年度)~令和8年度(2026年度)吹田市商工関係事業別予算・決算の対比」について、事務局から内容説明の後、次の意見、質疑がありました。

(会長) 5(5)などの新設した補助金について、予算額の前年比が0となっているのはなぜでしょうか。

(事務局) 5(5)に関しては、中小企業ホームページ等作成事業補助金という名称で実施していたも

のを、名称と内容を変えて実施しているものであるため、増減は0となっています。

(会長) 商店街等支援事業の17、18はどう理解すればよいでしょうか。

(事務局) 17と18の事業は、以前から継続して実施している事業で、昨年度と同額を当初予算額として要求しているものです。

(会長) 3月31日現在となっているのはどういう意味でしょうか。変更となる可能性があるということでしょうか。

(事務局) 市の会計の流れとしては、5月の末をもって、令和7年度予算の執行を全て行うような流れになりますので、4、5月で支払額が変わることがあれば、正式な決算額とは異なる金額になるものです。

■案件2「吹田市商工振興ビジョン2025検証シートの期末報告」について、事務局から内容説明の後、次の意見、質疑がありました。

(会長) 1ページ目の(2) 起業家交流会については、いろいろなところで、良い交流会だと耳にしますが、さらに周知していく予定ですか。

(事務局) 起業家交流会については、既存のツールを活用しながら周知を行っておりまして、80名近くの参加者数を維持できているかなと思っておりますので、引き続き、周知に努めてまいりたいと考えております。

(会長) (3) 創業・中小企業振興支援事業補助金について、事業の成果を表す指標として、吹田商工会議所が実施しているため、本アクションプランでの指標の設定は行わないとしていて、吹田商工会議所の方で確認をいただいているということですが、吹田商工会議所から委員として来ていただいておりますので、何か説明をいただければと思います。

(委員) 吹田商工会議所では、国や府からも補助金の交付を受けています。国の補助金にも府の補助金にもはまらない事業について、市の補助金を交付いただいているというような形になっているので、指標として記載しづらいものになっています。国や府の方針が変わると、市の補助金で申請する予定の事業を府で申請することになることもあります。

(会長) この補助金の創業支援というのは、どういうことをされているのでしょうか。

(委員) 基本的には経営相談などの謝礼金です。セミナー関連は府の補助金の対象になりやすいので、市には相談の謝礼金の方を申請しています。利用人数に応じて補助金額が決まるので、集客の難しいセミナーに大阪府の補助金は充てづらく、相談についても、相談者がゼロだと

払えないというようなことが生じるので、難しさがあります。

(会長) いろいろなお事情があるというが分かりました。事務局から何かありますか。

(事務局) この補助金は、行政では担えない法律相談など、専門性や知識・ノウハウが必要な分野を吹田商工会議所の事業で補完していただいているという趣旨で、交付しています。事業開始の平成 18 年度から対象事業の大幅な見直しはしていないかと思imasので、補助金の趣旨に照らして、時勢にあった取組なのかといったことを踏まえながら、変える部分は変えていかなければならないのかなと認識しております。

(委員) 2 ページ目の(6) 商業相談について、毎年同じ取組予定になっているかと思imasますが、吹田商工会議所との住み分けができていないと利用者も相談先が分からないと思imas。以前はもう少し相談者が多かったように思imasますが、いまは 37 名で、周知というよりも、どこに相談すればよいか分かっていない方が多く、今年度からは IT 系の相談も始められるということで、この目標を達成できるのかを不安に思imas。

それと同じことが、5 ページ目(1) 企業情報収集・支援の訪問件数にも言えると思imas。去年も同じことを言ったように思imasますが、この件数が妥当なのか。数よりも質を問わないと、件数だけで B と評価ができるのかなと疑問に思imas。

(事務局) 商業相談(経営相談)の IT 相談については、比較的多くの方にご利用をいただいているとのことes。今年度どれくらいの件数になるかは分かりませんが、そのあたりもふまえて、今後の取組を考えていきたいと考えています。市の商業相談(経営相談)については、開業したいけどどうしようかなどか、まだまだ本格的ではないような方にもお越しいただいているのかなと思imasしております。吹田商工会議所との違いや、こういったところで活用いただけるかということes周知していきたいと考えています。

(事務局) 今回お示ししている資料は、商工振興ビジョン 2025 に基づく検証シートです。新しいビジョンを策定しておりますので、検証のあり方についても改めて見直しをしていきますので、その中で、皆様にもご意見をいただきながら、2035 年に向けて歩みを進めていければと思imasしております。

(委員) アクションプランが新しくなったということがありますので、検証方法を検討していただければと思imas。

また、起業家交流会については、参加者数が増えて、新規の方も各回 20 名前後参加されていますので、その方に商業相談を活用いただき、起業の進め方のところで役立てていただくなど、他の事業との相乗効果を出していただきたいと思imas。

(会長) 今の話は非常に大事だと思imas。これからの時代は、ダブルループ学習が大事だとよく言われていて、そもそもなぜこの事業をするのか、この数字は正しいのかとか、ずっと継続

して事業をしていると、その数字が正しい数字だというように一人歩きすることがあります。その数字がどこから出てきて、何を目的として定められているのかを考えることが大事だということです。新しいビジョンができていますので、目標値そのものの検討もしていただければと思います。

(委員) 検証方法というところで、この会議では情報発信が大事だという話を何度もしてきました。8ページ目の(3) 情報発信の成果を表す指標が FAX の提供回数となっていますが、送った回数ではなく、どれくらい反応があったか。メルマガや SNS を活用されるのであれば、登録者数などに目を向けないと、情報発信の価値が見れないと思います。そういったところに検証方法をシフトする方向で検討してほしいと思います。

(事務局) 委員のおっしゃる通り、情報を発信した回数ではなく、それに対するリアクションをもとに、効果的な手法を検討していく必要があると考えております。実際に活用いただいた補助金について、どこで知ったかということ进行调查することもありますし、市報を見て知ったという方も多いという認識ですので、リアクションをどう活用していくか、「どの時期に・どの対象者に・何の情報」をというところを意識して、情報発信に努めていきたいと考えております。

(委員) 情報発信については、投げっぱなしにならずに、どうフィードバックをとっていくかというところだと思います。いろんな手法を試そうとされているところで、昨年、税理士会の総会での情報発信をされたという話があったかと思いますが、今年はされたのでしょうか。

(事務局) 臨時交付金を活用したブーストアップ補助金を開始するタイミングと周知の機会いただける時期が合ったことと、以前から情報発信についてご指摘をいただいていたので、税理士会にお願いをして周知をさせていただきました。今年度についても、同友会さんなどの経済団体をふくめて、我々の既存の事業をふくめて、定期的に周知をしていこうという方針を立てていますので、引き続き、取り組んでいこうと思っています。

(委員) きっかけがあるものは試していただいて、効果があるものはブラッシュアップしていけばいいし、成果がないものは切って、常に動かしていくべきかなと思います。

(委員) 周知の方法が難しいなというのは、私もいつも思っていますが、1つではなくて、複数の方法を用いて、波状効果で進めていただけたらと思っています。

商業相談のことで、他市の法律相談だと土日や夜間に実施されていることもあり、市民が行きやすい場所で実施されていることありますが、吹田市の商業相談や吹田商工会議所はどうしていますか。

(事務局) 現状としては、平日の昼からをメインに、場所は市役所や、出張相談で相談者の希望に応じて市内にお伺いしています。お電話での相談も受けておりますが、土日や夜間については

実施しておりませんので、ニーズなどを検証していきたいと思います。

(委員) 吹田商工会議所は固定の弁護士相談は実施していません。先ほども申しましたが、相談者がいないと謝礼金が支払えず、ボランティアになってしまうので、相談を受けて、日程調整をして、会議所や弁護士の先生の事務所で会いいただく形でしております。

(会長) 土日・夜間に営業をされる歯医者や士業が増えてきているように思うので、ニーズはありそうな気がしますね。

(委員) 産業フェアに出展される事業者から、出展料が高くてしんどいという話がありましたので、出展料を下げただけだとありがたいです。出展を予定している事業者はどれくらいいるのでしょうか。

(事務局) 事務局は吹田商工会議所がメインであるため、出展料についてはお答えできませんが、出展を予定している事業者は約70者となっております。

(委員) 出展料については、木曜日から設営をしており、ステージの設営などでも人件費がかかっています。設営等の費用が上がってきていますが、市の補助金額が変わらない中で、やっていかなければならないという状況です。

■情報共有

(委員) ビジョンには、商店街等と書いてありますが、商店街に加盟されていない方が大多数だと思います。千里山近辺で店舗を構えている方と地域住民の交流会を4月に実施しました。第1回目でしたので、事業者10名、地域住民10名でしたが、次回は9月に40名規模の交流会を実施する予定です。枠組みに入っていない方をいかに盛り上げていくのかというところが大切かなと思っていますので、そういう方々へも支援をして、地域住民だけでなく、事業者も盛り上がるような施策を考えていただきたいと思います。

(委員) 人材難や円安で厳しい中で、中東の問題があり、業種にもよりますが、物が入らなくなってきた始めていて、これまでは1ヶ月で入ってきていたものが、いつ入ってくるか分からないという状況で、注文を受けても対応できないという厳しい時代になってきています。市がブーストアップ補助金をされていますが、そういった設備投資の補助金ありがたいもので、設備投資は数年に1回実施するということも多いため、継続的に実施していただくとありがたいです。

(委員) 国の臨時交付金は、市町村によって使い方がバラバラですが、吹田市の商品券の結果はどうなったのでしょうか。市町村によって違うのは仕方がないと思いますが、市民の立場から見ると、同じ国のお金なのに、住んでいる地域によって施策が違うんだなと思っています。

また、国の補助金は賃上げをしないと交付しないというものが増えていて、小規模の事業者には難しいため、安定して継続的に実施できる補助金を作っていただきたいと思います。

(委員) デジタル商品券を家族分申し込み、全員分当選しましたが、期限が8月末までなので、期限が厳しいなと感じています。どのくらいの市民が応募しており、どのくらいの地元企業がPayPayに対応されているのか、疑問に思いました。茨木市は紙で半額補助、大阪市は上限が4万円で、市町村によってやり方が違うのはどうなのかなとも思いました。

(委員) 情報発信のことで、起業家交流会に来られた方にメルマガを登録してもらおうといった仕組みづくりをするとか、創業支援で来られた方にもメルマガへの登録を案内するとか、幅広く情報が行きわたるようにしていただきたいと思います。

(委員) 市外の話ですが、グラングリーンがたった1年で人がいない状況になっていますが、1年前に誰がこの状況を想像できたでしょうか。また、京都の宿泊施設でも、昨年と比べて、価格が大幅に下がるということも起きています。状況はすぐに変わりますし、想定しづらい時代になってきていますので、情報を取っていく際には、常にその情報が正しいかを考えて、いろんな手を打っていく必要があると感じています。

(委員) 起業家交流会のこれまでの取組状況のところ、第50回の参加者数が大きく増加していて、初参加者も大きく増加しているかと思いますが、何かあったのでしょうか。

(事務局) 第50回目ということで、実行委員が力を入れて集客をされていたことと、以前、吹田商工会議所で創業支援に携わっていた方に講師としてお越しいただき、その方の創業支援を受けて起業された方々が参加されたことで、参加者数が増加しました。

(委員) 昔から通信販売に関するトラブルは多く、訪問販売や電話勧誘販売もなくならなくて、法律が改正されても、後追いの対応になるので、なかなか救済に繋がらないという課題があります。警察案件も多く、詐欺だと連絡しても相手に繋がらないので、ご相談いただいても、警察へのご相談を案内するしかないというケースも多いです。

(委員) 中東の問題で材料の仕入れが困難というケースが増えてきています。納期の遅延に至る状況もあり、生活の心配も出てきています。

(会長) いろんなお話を受けて、事務局から何かありますでしょうか。

(委員) デジタル商品券について、発行口数を30万口としておりましたが、応募数が満たなかったため、6月に2次販売を実施する予定です。物価高騰対策の事業は国の交付金があり、ある程度、メニューが示されている中で、柔軟に市町村が選んでいけるような中身になっています。紙・デジタルのそれぞれにメリットやデメリットがありますが、吹田市ではプレミア

ム率や経費を考えて、このような形で実施をしています。今回もいろいろなご意見をいただいておりますので、今後、同様の事業を実施する場合は、ご意見を参考にしながら、考えていければと思っております。

(事務局) 情報発信の取組として、いかにフィードバックをして、更なる周知に繋げていくかということ意識して、いただいた意見を参考に検討していきたいと思っております。

(会長) それでは、これで本日の案件は全て終了となりました。
どうもありがとうございます。
それでは最後に、事務局の方から今後の御連絡をお願いいたします。

(事務局) 本日はありがとうございました。
この委員の皆様で会議を開催させていただくのは、本日が最後となります。
2か年にわたり、様々なご意見や助言をいただきまして、ありがとうございました。
いただいた意見をしっかりと今後の施策に反映していきたいと考えておりますので、引き続き、産業振興施策にご協力いただきますよう、よろしくをお願いいたします。

(会長) 本日の会議はこれで終了とさせていただきたいと思えます。
本日はお忙しい中、ご参加いただきまして、どうもありがとうございました。

(終了)